

## 韓国中学校国語教科書の研究(1)

A Study on Korean Language Textbooks for Junior High School

足立悦男\* 申美熙\*\*

Etsuo ADACHI

Mihui SHIN

### 要 旨

本稿は韓国国語教科書の継続研究である。今回は韓国中学校国語教科書について考察する。韓国では2001年から第7次教育課程となった。新教育課程によって中学校国語教科書の形式・内容は大きく変わった。2001年から1年生は新教科書を使用している。そして順次刊行されて、2002年からは2年生、2003年からは3年生の新教科書となる。本稿では2001年度から使用された1年生の最新の教科書を研究対象とする。新しい韓国中学校国語教科書について、日韓の教科書を比較しながらその特色について明らかにする。日本側の教科書としては、私が著作者として制作にかかわった「中学国語(教育出版 2002年度から使用予定)」をテキストとする。また【資料編】には、日韓比較国語教育研究の基本文献として、韓国中学校国語教科書1年生用(2001年度版)の関連資料を紹介する。

[キーワード] 韓国の第7次教育課程 日本の新学習指導要領  
韓国の中学校国語教科書 日本の中学校国語教科書

### 第1章 中学校国語教科書の仕組み

#### 1. 第7次教育課程

韓国『중학교교사용지도서(中学校教師用指導書)(教育部発行)』によると、2001年から新しく始まった韓国の中学校教育課程は第7次教育課程であり、2001年に中学1年、2002年に2年、2003年に3年を対象に順次実施される。第7次国語科教育課程の特徴をみていくと、韓国の国語教育(韓国語教育)のめざすその基本方向が分かる。第7次教育課程の特徴として、一つには国民共通基本教育期間の設定である。初等学校1年から高校1年までを国民共通基本教育期間に設定し、初等学校6年まで適用していた従来の国民の教育権利を、10年間に延長することになった。二つには、水準別教育課程を採択したことである。第1~10学年には深化・補充型水準別教育課程を採択しており、従来の高校2~3年に当たる第11~12学年には科目選択

\* 島根大学教育学部国語科教育研究室

\*\* 島根大学大学院教育学研究科修士課程

型水準別教育課程を採択し、教科目をいくつか開設して学生ないし学校で選択できるようになった。三つには、学生の創意性の伸張を国語教育のもっとも重要な教育目標及び内容としたことである。

日本の教科書制度は検定制（小学校は6社、中学校は5社）であるが、韓国の教科書は国定教科書（1種類）である。国定教科書なので教科書の影響力は韓国の方が圧倒的に大きい。韓国の中学校の国語教科書は、2001年度から、『국어(国語)』『생활국어(生活国語)』の2種類、每学期2種類の2冊、1年間で4冊を使用し、指導と学習の専門化を図っている。韓国の学期制は2学期制で、1学期は3月～8月、2学期は9月～2月である。日本の3学期制と比較すると、韓国の2学期は日本の2・3学期に当たる。そしてサイズは、それまでのA5判からB5判と大きくなった。そして本文と挿絵はそれまで白黒であったものがカラーとなった。初等学校の国語教科書がすでにB5判サイズで1～3年は3種類『말하기・듣기(話す・聞く)』『읽기(読む)』『쓰기(書く)』、4～6年は2種類『말하기・듣기・쓰기(話す・聞く・書く)』『읽기(読む)』に分冊されており、高校の選択型課程が教科目により5種『화법(話法)』『독서(読書)』『작문(作文)』『문법(文法)』『문학(文学)』に分冊されていることからすると、中学校国語教科書の2種類構成は当然の改訂であったと思われる。

日本では平成14年度（2002年度）から新しい学習指導要領が全面実施される。戦後6回目の改訂であった。そして中学校では平成14年度から新しい教科書が使用される。韓国の新教科書（「国語」「生活国語」の2冊）と違い日本の中学校「国語」教科書は、これまでと同じ1学年1冊で、大単元をいろんなジャンルの教材で構成した総合型教科書である。21世紀の最初の国語教科書として、韓国の中学「国語」は内容・形式とも大きく斬新な変化を遂げたことがわかる。

## 2. 国語科教育の目標

『中学校教師用指導書』によると、韓国の国語科の目標は次のとおりである。

「言語活動と言語と文学の本質を総合的に理解し、言語活動の脈略と目的と対象と内容を総合的に考慮しながら国語を的確で効果的に使用し、国語文化を正しく理解し、国語の発展と民族の言語文化の発展に寄与できる能力と態度を育てる。

1. 言語活動と言語と文学に対する基本的な知識を身に付け、これを多様な類型の国語使用状況で活用する能力を養う。
2. 正確で効果的な国語使用の基礎基本と応用力を身に付け、多様な類型の国語資料を批判的に理解し、思想と情緒を創意的に表現する能力を養う。
3. 国語の世界に興味をもち、言語現象を継続的に探求し、国語の発展と国語文化の創造に貢献する態度を養う。」

韓国の国語科教育は、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことと言語活動を重視し、言語、文学に対する理解をもとに、国語生活と国語文化の発展に寄与する能力と態度を育てることに国語科の目標をおいている。この目標は初等学校1年生から高校1年生にいたる10学年全体に共通する目標として、国民共通基本教育の国語科目標でもある。

『中学校国語科教師用指導書』によると、第7次国語科教育課程第1～10学年の授業時数は以下の表のとおりである。

区分	初等学校						中学校		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年別授業時数	210	238	238	204	204	204	170	136	136
週別授業時数	7	7	7	6	6	6	5	4	4

日本の中学校の国語科の年間授業時間は、2001年度までは、第1学年175時間、第2学年140時間、第3学年140時間であったが、2002年度からの完全週休2日制の導入によって大きく減少し、年間授業時間は各学年とも105時間になった。週時間数は第1学年4時間（書写1時間を含む）、第2学年3時間、第3学年3時間である。そのために教育内容の精選と国語教科書のスリム化がはじまっている。国語科授業時間数においても韓国と比べ大きな減少となった。

### 3. 国語教科書の仕組み

次に、韓国の中学校国語教科書の仕組みについて考察する。以下の考察において使用するテキストは、2001年度発行の1年生の教科書である。現在、まだ1年生用の教科書しか発行されていないからである。

日本の中学校の国語教科書（約300頁）は1学年1冊であるが、韓国は2学期制で国語教科書は毎学期『国語』と『生活国語』の2冊とし、指導と学習の専門化を図っている。『国語』教科書（約300頁）では‘読む’‘文学’領域を取り扱い、『生活国語』教科書（約200頁）では‘話す’‘聞く’‘書く’‘国語知識’領域を扱っている。国語教育課程では国語教育の下位領域として、聞く・話す・読む・書く・国語知識・文学の六つの領域を設定している。そしてこの各領域について5～7の指導内容を提示している。大単元数は1学期7つ、2学期6つで構成されている。（詳しくは【資料編】を参照。）

中学校1年生の国語授業時数は週5時間である。この5時間の中で『国語』教科書3時間、『生活国語』教科書2時間の時間割り当てになっている。『国語』と『生活国語』は独立的な個別教科書なので、教育課程の領域も違い、各教科書の単元内容も独立的である。

本節では、韓国の国語教科書の内容構成の特徴について考察する。「国語1-1」「生活国語1-1」（1年1学期）を例にすると、目次は以下の表のようになっている。大単元名、領域と教育課程の内容、大単元の学習目標、配当時間数、といった構成である。

#### ①『国語』教科書の内容構成

「国語1-1」教科書の単元別領域、目標および授業時数は次のようである。

大単元名	領域と教育課程の内容		大単元の学習目標	週（時数）
	領域	教育課程の内容		
1 文学の楽しさ	文学	・作品のもつ美しさと価値を把握する。	・文学作品を読んで感じたことを文章に表現できる ・文学作品を楽しく読むことができる	3（9）
2 読むことと書くこと	読む 書く	・読むと書くの共通点と相違点がかかる ・読むと聞くの共通点と相違点がかかる	・文章を読んで作者の考えと自分の考えを比較することができる ・文章を読んで自分の考えを文章に表現することができる	2（6）

3 文学とコミュニケーション	文学	・コミュニケーションの行為としての文学の特性がわかる	・作家、作品、読者の関係を理解することができる ・コミュニケーションの観点から作品を鑑賞することができる	2(6)
4 メモしながら読む	読む	・内容をメモしながら文を読む	・文章の主要内容をメモしながら読むことができる ・考えと感じたことをメモしながら読むことができる	2(6)
5 生と葛藤	文学 文学	・作品のなかに現れる葛藤の解決過程と人物の心理状態との関係を把握する ・作品に現れる社会、文学的状況での人物の行動を把握する	・葛藤の解決過程による人物の心理変化を把握することができる ・作品の中の葛藤を把握することができる	2(6)
6 言語の世界	読む 国語知識	・文章の内容に対する考えと感じ方を文章に書く態度を身に付ける ・音声言語と文字言語の関係がわかる	・音声言語と文字言語の特性を理解することができる ・文字の発達過程を理解することができる	2(6)
7 文学と社会	読む 文学	・作者の意図と目的を把握しながら読む ・作品の社会的、文化的、歴史的状況からその時代の価値を理解しようとする態度をもつ	・文学作品と社会の関係を理解することができる ・作品の中の社会的状況を理解することができる	3(9)

② 『生活国語』教科書の内容構成

「生活国語 1 - 1」教科書の単元別領域、目標および授業時数は次のようである。

大単元名	領域と教育課程の内容		大単元の学習目標	週(時数)
	領域	教育課程の内容		
1 考えと表現	書く	・多様な表現を使って文章を書く	・多様な観点から考えられる ・斬新に表現できる	3(6)
2 話すことと聞くこと	話す 聞く	・話す・聞くの共通点と相違点がかかる ・内容の仕組みを把握して聞く	・話すことと聞くことの特性が分かる ・内容の仕組みを把握しながら聞くことができる	2(4)
3 情報収集	話す 聞く	・多様な媒体で内容を選定して話す ・内容の統一性を評価しながら聞く	・多様な媒体から情報を収集することができる ・収集した内容が主題と合うか評価することができる	2(4)
4 国語生活の反省	国語知識 国語知識	・隠語、専門語、俗語、卑語、流行語の概念がわかる ・国語を純化する態度を身に付ける	・外来語、隠語、卑俗語、流行語の意味がわかる ・わが国の言葉を正しく大切に使うことができる	2(4)
5 内容の選定	書く	・多様な媒体で内容を選定して文章を書く	・内容を選定する方法がわかる ・内容を選んで文章を書くことができる	2(4)
6 状況にふさわしく話す	話す 国語知識	・状況によって適切な口調で話す ・談話の構成を知る	・談話の状況を構成する要素が分かる ・状況にふさわしく話すことができる	2(4)
7 書き直し	書く	・主題から外れた内容を書き直す	・書き直しの必要な理由について話すことができる ・自分の文章を書き直すことができる	3(6)

以上、「国語 1 1」と「生活国語 1 - 1」の構成であるが、「国語 1 - 2」「生活国語 1 - 2」も同様の構成である。また、2年生の教科書、3年生の教科書も同様の構成になると思わ

れる。

韓国の教科書の特色を明らかにするために、日本の教科書(「中学国語」教育出版)の1年生(2002年度版)をみておくと、1年間で1冊の教科書(B5版 296頁)であり、6つの単元で構成されている(詳しくは【資料編】資料5を参照)。各単元名は以下のとおりである。1言葉の森へ、2環境をとらえる、3心をひらく、4古典にふれる、5科学への目、6出会い、の6単元である。

日本の教科書の単元は、多くの場合、「言葉の森へ」「環境をとらえる」のように話題によって構成されている。教材ジャンルとしては、詩・小説・エッセイ、説明文・論説文などがある。また2002年からの新学指導要領のめざす「伝え合う力を育てる」国語教育に対応して、話す・聞く活動、書く活動を重視した学習の手引きが付いている。このような日本の教科書と比較するとき、韓国の教科書の構成には以下のような特徴がみられる。

- ①韓国の国語教科書は、2001年度から、『国語』と『生活国語』の2種類になった、ということ。そして年間2セットずつ、1年間で4冊の教科書を使用することになる。日本の場合、これまでどおり年間1冊なので量的に大きな違いである。その結果、韓国の国語教科書は単元数を大きく増やすことになった。単元構成の研究に多くの成果があったと思われる。日本の場合、2002年度からの週休2日制に対応するために各学年とも1単元数を減らしている。
- ②その結果、日韓の教科書には単元数に大きな差ができています。韓国の教科書は、『国語』は1学期7単元、2学期6単元で、13単元、『生活国語』も1学期7単元、2学期6単元で、13単元。1年間で26単元である。日本の年間1冊6単元とくらべると4倍の単元数である。単元数、教材数とも韓国の教科書の方が圧倒的に多いことがわかる。単元数が多いだけでなく、大単元・小単元という2段階の構成の仕方にも特色がみられる。(【資料編】を参照)
- ③単元名をみると、『国語』編では「文学の楽しさ」「文学とコミュニケーション」のような話題単元と、「読むことと書くこと」「メモしながら読む」のような言語活動を表す単元と2種類ある。『生活国語』では「考えと表現」「情報収集」のように言語生活に関する話題単元と、「話すことと聞くこと」「状況にふさわしく話す」のような言語活動の単元とがある。日本の教科書が話題単元を中心に構成されているのと比べると、韓国の教科書は、生徒たちの豊かな言語生活を育成する単元構成といえる。
- ④大単元には領域が明示されていて、聞く、話す、読む、書く、国語知識、文学の6つの領域を設定し、各単元を領域別に分けて構成している。『国語』は「文学」「読む」の領域、『生活国語』は「聞く」「話す」「書く」「国語知識」の領域で構成されている。2種類の教科書の役割は明確に区別されている。
- ⑤大単元には、「領域と教育課程の内容」と「大単元の学習目標」が明示されている。単元数の多さは、当然のように多様な領域と教育課程、それに即応した多様な学習目標を必要とする。日本の教科書に比べると、この分野での研究はかなり進んでいるようである。
- ⑥総じていえば、日本の教科書は「教科書で教える」、韓国の教科書は「教科書を教える」という特色がみられる。日本の教科書は教材本位であり、教える教師の裁量・工夫にまかされているが、韓国の教科書は、教科書の中において学習目標・学習内容・学習方法が明記されている。国定教科書であることから、全国の中学校で同一の教育内容を教えることができるよ

うに工夫されている。

## 第2章 国語教科書の単元構成

次に、韓国の中学校国語教科書の単元構成について考察する。韓国の『国語』教科書の単元構成は次のようになっている。

### 大単元

単元の手引き - 〔学習目標〕

小単元(1) - 〔読む前に〕 - 本文 - 〔学習活動(内容学習・目標学習・発展学習)〕

小単元(2) - 〔読む前に〕 - 本文 - 〔学習活動(内容学習・目標学習・発展学習)〕

...

考えをひろげ

補充・深化 - 〔自己点検〕

この単元を終えて

上記の単元構成について、『中学校教師用指導書』の解説を要約とすると、以下のようである。

#### ①大単元の表紙

大単元の表紙には五つの情報が含まれている。大単元の領域、大単元名、小単元名、小単元の目次、挿絵がそれである。挿絵は単元学習内容に対する例示、生徒の背景知識を引き出す、学習の動機づけ、などいろいろな目的で機能する総合的な学習内容である。

#### ②〔単元の手引き〕

単元学習内容に対する提示、学習の重要性、生徒の背景知識や関連経験を引き出す、単元の内容と構成の案内などの内容が入っている。

#### ③〔学習目標〕

〔単元の手引き〕には2つの学習目標が提示されていて、目的をもって学習活動をするようになっている。この学習目標は教育課程に提示された教育内容である。

#### ④小単元

大単元は2つ以上の小単元で構成されている。その小単元は互いに緊密な学習上の関連をもっている。同じ類型の小単元で反復学習をする大単元もあるし、最初の小単元で教師の説明を中心にして、次の小単元では生徒が練習と発展学習をするような大単元もある。

#### ⑤〔考えをひろげる〕

考えを深める学習活動である。小単元の題材やいろいろな学習活動を通して話し合いの主題をみつける。そして主題に対して各自またはグループに分かれて話し合う活動で、話す・聞く・読む・書く活動を統合的に活用する単元である。

#### ⑥〔補充・深化〕

〔補充・深化〕は大きく‘自己点検’と‘補充・深化’活動で構成されている。‘自己点検’では生徒が自ら自分の学習結果、興味、関心を点検してみることである。‘補充・深化’

では生徒自身の知的水準や興味、関心によって適切なものを選択し、学習する活動である。したがって教師は案内し、手助けをするだけである。

⑦〔この単元を終えて〕

単元の学習内容をまとめ、その重要性をもう一度確かめ、他の単元または日常生活とどう関連づけていくか、という課題を提起して終わっている。

⑧著者名

『中学校教師用指導書』には著者の具体的な説明がなされているが、教科書にはなされておらず、教科書の後部の付録にまとめて著者や出典が示されている。日本の教科書では教材名とともに作者名が記載されていて、教材の後には簡単な略歴が紹介されている。

第3章 国語教科書の学習の手引き

本章では、韓国の中学校国語教科書の学習の手引きについて考察する。事例として、韓国『国語』教科書(1年生)の最初の単元である「文学の楽しさ」の学習の手引きをテキストとする。この大単元は4つの小単元と、「考えを広げ」補充・深化で構成されている。教材は、詩「初春」、物語「お父さんの形見」、随筆「幼い日の肖像」、小説「理解のプレゼント」、学生作品、民謡、物語など多様である。

「文学の楽しさ」単元の学習目標は、先の単元一覧にあったように、①文学作品を読んで感じたことを文章に表現できる、②文学作品を楽しく読むことができる、である。そして、「文学の楽しさ」の学習内容や手引きは以下のようにになっている。

1. 「初春」

새 봄	김지하	初春	金芝河
벚꽃 지는 걸 보니		桜が散るのを見ると	
푸른 솔이 좋아		青い松が好きになる	
푸른 솔 좋아하다 보니		青い松が好きになると	
벚꽃마저 좋아		桜も好きになる	

小単元(1)詩「初春」について『中学校教師用指導書』によると、金芝河(キムジハ)の「初春」を通して、詩のもつ意味を考える楽しさを味わい、内容を十分理解した後で自分の暮らしと関係づけて考えてみる楽しさを味わうことができるだろう、と述べている。中学校の国語入門の教材として、日本でもよく知られている金芝河の詩が載っている。日本の教科書でも「中学国語(教育出版)の最初の教材は、「わたしの中にも(新川和江)」という春の喜びをうたった詩であるが、金芝河の詩は哲学的な内容の作品である。

韓国の教科書には、教材の前に〔読む前に〕という、日本の教科書にはない学習の手引きが出ている。そのあとで教材が登場し、〔内容活動Ⅹ目標学習Ⅹ発展学習〕と学習が展開されるようになっている。「初春」の場合は以下のような手引きである。

〔読む前に〕

1. 次の二つの単語から思い浮かぶことを自由に書いてみよう。

松(소나무)、桜(벚나무)

2. 次の文を読んで松と桜の魅力について考えてみよう。

「枝に雪が積もった松」の写真	「雪と冷たい風にも変わらず青い光をもっている松の魅力」について説明している。
「満開した桜」の写真	「桜の花が風に舞い落ちるのをみてまるで別天地にいるような錯覚を覚えるほどである桜の魅力」について説明している。

〔内容学習〕

1. 作者は‘桜’が散るのをみて‘青い松’が好きになったといった。それは‘青い松’のどんなところからだろうか。
2. 作者が‘桜’も好きになったのはなぜだろうか。

〔目標学習〕

作者が実際に山と野原に立っている松と桜を見ながらこの歌を歌った、と想像してみよう。  
作者の望む山の姿はどうだろう。

〔発展学習〕

1. ‘私は正しくてあの人は間違っている’、‘私はこれが好きで、あれは嫌いだ’と思っていたが、‘あ、私が間違っていたんだ’と思った経験があれば、話してみよう。
2. 松の青い光と桜の薄紅色の作り出す調和の美しさのように、私たちの周りの暮らしから、このような調和できる知恵が必要だと思うところがあれば話してみよう。

〔読む前に〕には松と桜の写真があって、松と桜の魅力が解説されている。どちらの木も独自の魅力をもっている。「初春」のテーマを先取りした手引きである。そのあとで「初春」の詩を読み、「初春」についての学習が始まる。〔内容学習〕は内容読解の問いであり、〔目標学習〕は作者の位置に立って想像するという作者・金芝河を意識づける問いである。〔発展学習〕は作品を離れて、詩のテーマに基づいて生徒自身の経験や周りの暮らしを考えてみよう、という発展した問いである。〔読む前に〕から〔発展学習〕まで、生徒の興味・関心を考えた段階的な問いによって構成されている。読解中心、活動中心の日本の教科書の手引きとは対照的で厚みがある。

## 2. 「お父さんの形見」

小単元 2 昔話「お父さんの形見」は、貧しい家のお父さんが死ぬ前に三人の息子に臼(엷돌), 瓢箪(표주박)と竹の杖(대나무 지팡이), 太鼓(장구)をあげた。三人の息子はそれをもって金持ちになって再会しようと誓って一人旅に出た。一番目の息子は臼を回す音で泥棒を脅かして金持ちになった。二番目の息子は瓢箪と竹の杖で骸骨を装い鬼をだまし、金持ちの家の娘の魂を取った鬼から魂を取り返し婿になった。三番目の息子は太鼓の演奏に踊る虎と共演するうち、王様に虎を高値に売って金持ちになった。三人ともお父さんの形見をうまく使いこなし、金持ちになって再会し、お父さんの恩恵に感謝した、という物語(昔話)である。

『中学校教師用指導書』によると、昔話「お父さんの形見」を通して、生徒自ら昔話の伝承者になって新しく書いてみる活動と、人々はどのように昔話が好きなのかを考えてみる活動などをする。このような活動を通して昔話を読む楽しさを味わうことができるだろう、と述べている。昔話作品を読解・鑑賞するだけでなく、中学生を昔話の伝承者として育てたい、というねらいである。「お父さんの形見」の手引きは、以下のようである。

## 〔読む前に〕

1. 面白い昔話を聞いたり読んだ経験があるか。友達に好きな昔話一編を次のように紹介してみよう。
  - ・今紹介しようとする昔話をどうやって知ることができたのか。
  - ・その話が好きな理由は何か。
  - ・話のあらすじは何か。
2. 次の話の最初のところを参考にしながら文章を一文ずつ創作してつないでみよう。

## お父さんの形見

1番目の人：ある貧しいお父さんが三人の息子に一つずつ形見をあげて亡くなりました。

2番目の人：一番目の息子は...

## 〔内容学習〕

1. この物語の内容を次のようにまとめてみよう。  
(あらすじの始まりと終わりを上下に提示し、真中に三つの空欄があって出来事のあらすじを要約する学習ができるようになっている。)
2. 皆さんが〔読む前に〕で作った話と本文「お父さんの形見」とを比較してみて、共通点と相違点を言ってみよう。

## 〔目標学習〕

もし、四番目の息子がいたら、この息子はどのように金持ちになるだろう。次の形見の中から一つ選んで、四番目の息子が金持ちになる話を面白く作ってみよう。

扇子(부채) くわ(괘) めん鳥一羽(암닭 한 마리) 干しとうもろこし(말린 옥수수)  
つば(항아리) わらぐつ(짚신)

## 〔発展学習〕人々が昔話を好きな理由について考えてみよう。

1. 昔話には非現実的な要素がたくさんある。「お父さんの形見」で非現実的な要素と思われるところを見つけて書いてみよう。
2. このような現実離れの話にもかかわらず、人々が昔話を好きな理由は何だろう。

この小单元では、〔読む前に〕の手引きによって昔話を読んだ経験を話し合い、好きな昔話を紹介し合うという導入である。また、教材「お父さんの形見」の冒頭部分の後を、生徒たちが一文ずつ創作していく、という創作作文の課題が出ている。教材の冒頭の一節を使った興味ぶかい創作指導である。そして、教材を読んだあとの〔内容学習〕としては、空欄を使った「あ

らすじ」の確認や、〔読む前に〕で創作した作品と比較する、という学習が行われる。創作学習はここでも生かされている。つづく〔目標学習〕では、もし四番目の息子がいたら、という昔話の続編の創作学習が予定されていて、昔話の創作による想像力の育成が重視されている。〔発展学習〕としては、昔話の特徴を理解し、伝承者としての役割を意識させるような学習である。

全体的にみて、学習内容が明確であり、〔読む前に〕から〔発展学習〕まで、段階的、系統的に手引きが配列されている。とくに日本の教科書にはない、創作学習の手引きが充実している。

### 3. 「幼い日の肖像」

小単元(3)随筆「幼い日の肖像」は、作者(文恵英 ムンヘヨン)が小学校3年のとき、お母さんの代わりに幼い妹をつれて遠足に行ったことを書いた随筆である。妹のことが心配で自分の遠足をあきらめる少女の温かい心を描いた作品である。この教材の学習の手引きは、以下のものである。

#### 〔読む前に〕

1. 随筆は作者が実際に経験したことや自分の考えを書いた文である。随筆を読むことのほかに、周りの人々の暮らしていく話を知る方法としてどんなものがあるか考えてみよう。
2. 次の中で実際に経験したことがあれば言ってみよう。そしてそのことを経験してからどんなことを考えるようになったかも話してみよう。
  - ・一人で幼い弟(妹)をつれて遠くまで行ったこと。
  - ・大人の助けなしで子守りをしたこと。
  - ・兄と弟(妹)と喧嘩したこと。

#### 〔内容学習〕

1. 妹のわがままなところを全部見つけてみよう。
2. 主人公が妹の遠足に行くしかなかった理由は何か。

#### 〔目標学習〕

1. お姉さんの心も知らずに友達と遊んでいる妹を見ながら、主人公は何を考えていたのだろう。
2. 本文の内容の中で次の部分をもう一度読んでみよう。線を引いた「涙一粒」の意味は何だろう。

一人ですわってお弁当の袋を包むわたしの目の前がぼんやりしてきました。こらえた涙一粒がほおをこぼれ落ちました。

#### 〔発展学習〕

私が主人公ならどうしたんだろう。弟(妹)の遠足に行ったんだろうか。それとも他の方法を考えたんだろうか。

この小単元の学習の手引きもよくできている。〔読む前に〕では、随筆教材と似たような経験について発表し合う、という導入である。そして教材を読んだあとに内容読解の学習がある。〔内容学習〕では登場人物の妹についての問い、〔目標学習〕では作者についての問いである。そして〔発展学習〕として、「私が主人公なら～」と生徒自身の考え方を問うている。生徒が主人公になって作者の行為を対象化して批評する、という学習である。

#### 4. 「理解のプレゼント」

小単元(4)「理解のプレゼント」はアメリカ児童文学者、ポール・ビラード(Paul Billard)の小説で、柳玲(ユヨン)訳の作品である。

小さい頃、お母さんに帰り道によくあめを買ってもらった。ある日一人で店に行き、お母さんのように何かを渡したらあめをもらえんと思って、あめ代にサクランボを渡したら、おじいさんはあめとおつりをくれた。大人になったその少年は熱帯魚の店をやっていた。ある日、幼い兄弟が熱帯魚を買いにきてお金を出したが、全然足りなかった。その時彼は子どもの頃の出来事を思い出し、おじいさんのしたように熱帯魚とおつりを渡した。そうして子どもの無邪気な世界を理解し、子どもの頃守ってくれたおじいさんの心にふれることができた、という人情物語である。この小単元の学習の手引きは、以下のようである。

〔読む前に〕

1. 小説は随筆とどういう点が違うか。
2. 幼い弟(妹)やいとこに、百円玉2、3個をあげながら五百円玉と交換しようとしたことがあるか。子どもはお金の価値がよく分からないので、数が多ければ良いと考えがちである。次のことについて両親に尋ねてみて、授業で発表してみよう。
  - ・幼い頃お金のことがわからなくて起こったおもしろい出来事。
  - ・お金の価値や使い方について分かった頃のおもしろい出来事。

〔内容学習〕

この小説には美しい理解の場面が三カ所ある。その三カ所について発表してみよう。

〔目標学習〕

もしこの小説を映画にするとしたら、この小説のどの場面を強調するか。その理由は何か。

〔発展学習〕

私が「ウィグドン」おじいさんだったら、サクランボ何個かであめを買おうとした子どもをどう扱ったんだろう。その店の主人になったと想像して、私の取る行動を書いてみよう。

この小単元の学習の手引きでは、〔読む前に〕で小説と随筆のジャンルとしての違いを理解させる。また、幼い頃のお金にまつわる出来事を発表する、という導入である。そのあと〔内容学習〕として、小説を読んで美しいと思う場面を発表する。そして、「もし、映画にするとしたら～」という仮定的な学習や、〔発展学習〕では「私が～だったら」という登場人物になって想像させる、という展開になっている。段階的な手引きであるとともに、小説というジャンルの特性をふまえながら、ジャンルをも越えていくような手引きもある。生徒たちの興味・関

心を引くようによく工夫されている。

この大単元「文学の楽しさ」は、このあと〔考えをひろげる〕〔補充・深化〕と、さらに発展的に展開していく。まさに大単元というにふさわしい多面的、重層的な構成といえる。

### 考えをひろげる

〔考えをひろげ〕では「入れ歯（学生作品）」という作文が教材である。そのあらすじは以下のようである。バスの中で居眠りしているおじいさんがいて、咳をしたら入れ歯が抜けたが、おじいさんは気づかない。周りの人はただ見ているだけで、入れ歯はバスの動きによってあちこち動き、ドアが開くと外に落ちそうになった。それを気にしているうち、だんだん家に近づいていく、という作文の前半部分が紹介されている。ある生徒が日常生活で経験したことを作文にしたものである。この作文を読んで、後に続く出来事を想像して書いてみよう、という手引きである。

『中学校教師用指導書』によると、この単元のねらいは次のようである。一編の小説や映画を見た後、その後どうなったのだろうか想像してみたりする。自分なりに想像してみるのも文学作品を読む楽しさの一つである。この〔考えをひろげ〕は生徒にこのような楽しさを与えるためである、と述べられている。想像力を育成することは韓国の国語教育の大きな目標になっている。

### 補充・深化

この後には〔自己点検〕と〔補充・深化〕という学習がある。〔自己点検〕は今まで読んだ文学作品のうち、一番好きな作品を選んでその理由を話してみる活動と、この単元を通して文学作品に対する態度がどう変わったかを自分に尋ねてみる活動になっている。いわば大単元のまとめの学習である。〔補充・深化〕の活動では提示されたいくつかの文学作品の中で読みたい作品を選んで読むことである。できれば多くの作品にふれることが望ましいので、授業のほかの時間に自由に学習することができるようになっている。いわば選択型の発展的な読書活動である。

この単元での〔補充・深化〕では、民謡の「子守唄1」「子守唄2」、詩「4時限が終わった」（学生作品）物語（童話）こいぬのうんち（グオンジョンセン）の三つのジャンルの作品が参考作品として紹介されている。各作品の手引きをみると次のとおりである。

#### ① 「子守唄1」「子守唄2」

子守唄を聴いていた小さい頃を思い出して、歌を歌うように次の2編の作品を読んでみよう。そしてこの2編の子守唄を参考にして子守唄を作ってみよう。

#### ② 「4時限が終わった - 戦争叙事詩 - （学生作品）」

i この詩の面白いと思われる部分を見つけよう。

ii 私たちの教室の昼休みの風景はどうだろう。昼休みの風景を思い浮かべて詩を一編書いてみよう。

## 4時限が終わった - 戦争叙事詩 -

左手には教室のどこでもごはんとおかずを防御できる金属の弁当箱、右手には攻撃と防御をかねて射程距離79センチのフォークミサイル、目、鼻、耳になされた完璧なレーダー網。

レーダーに目標物捕捉、  
1 4秒内に射程距離接近、  
0.1秒内に目標物命中、  
0 2秒内に弁当に輸送、  
0 3秒内に防御と同時に背を向けて後退！

しかし・・・  
弁当ぶたの保護膜とフォークミサイルで必死に防御したが、あちこちで飛んでくる敵軍の簞ミサイルとスプーン迫撃砲によって作戦失敗！

## ③「こいぬのうんち」

‘私は何も役立たない人’だと悩んだことはないか。また、勉強や運動が苦手な人をばかにしたり、無視したことはないか。この作品を読んで人間の真の価値について深く考えてみよう。

以上が、この小単元の学習の手引きである。発展学習としてバラエティのある作品が選ばれている。「子守唄1、2」は赤ちゃんが寝ているので犬や鶏は鳴かないで、星のようなきれいな目に眠りが訪れるという内容の詩である。「4時限が終わった」は、ある生徒が昼休みの風景を戦争にたとえて面白く表現した詩である。韓国の中学生の関心をユーモラスに描いた作品といえる。「こいぬのうんち」は何も役立たないように思われてもどこか必ず自分の居場所、存在理由があるという物語である。「こいぬのうんち」は日本でも韓国の代表的な絵本として教材化が試みられている(拙稿「日本文学教材の実践交流 - 絵本「こいぬのうんち」をめくって - 『月刊国語教育研究』2001年7月号を参照)。

学習の手引きをみると、私の子守歌を作ろう、昼休みの風景を思い浮かべて詩を書いてみよう、人間の真の価値について深く考えてみよう、創作への意欲を啓発する課題や、文学に内在する問いをみんなで考えてみよう、という課題である。この小單元だけでも十分一つの独立した單元として通用するが、「子守唄1、2」「4時限が終わった」「こいぬのうんち」のどれかを選んで学習する選択型の学習として、多様なジャンルから教材化されている。

## この単元を終えて

大單元「文学の楽しさ」のしめくくりの章である。『中学校教師用指導書』によると、この大單元は、「この単元で私たちは詩、昔話、随筆、小説など多様なジャンルの文学作品を読んできた。以前文学作品は退屈で楽しくないと思い、読んでみようともしない人がいただろう。このような人はこの単元の学習を通じて文学作品を読む楽しさについてもう一度考えてみたであろう。中学生になった以上、今まで触れたことのない多様なジャンルの文学作品を自ら選ん

で読む楽しさを見つけてみよう」という言葉で単元を結ばれている。

#### 第4章 日本の教科書との比較

ふりかえってみると、〔単元の手引き〕から〔この単元を終えて〕まで、全9時間(週3時間)の展開であった。毎時間、変化に富み充実した学習展開であった。単元構成と学習目標と学習の手引きが一体となって機能していた。そして、『中学校教師用指導書』でみてきた単元構成の特徴は、ほぼ忠実に実現されていたと思われる。日本の教科書の単元構成と比較するとき、中学校国語教科書の単元構成の方法として学ぶべきことが多い。

一つには、大単元・小単元という組み合わせである。日本の教科書では、ある話題のもとに2~3の作品(詩・小説・古典・説明文・論説文など)を中心にして、あと言葉のきまり(言語・文法)、漢字の広場、ときに読書教材を配置する、という構成が一般的である(【資料編】を参照)。そして年間に6単元の構成で、1単元にかかる時間は韓国に比べてかなり長い。韓国の教科書は年間4冊(「国語」「生活国語」各2冊ずつ)の分量があり、単元数・教材数ともに多い。単元数が多いから多様な単元構成が工夫できる。韓国の教科書のメリットである。

二つには、学習の手引きの充実である。大単元「文学の楽しさ」でみてきたように、小単元に付された学習の手引きは多様で充実していた。〔読む前に〕から〔発展学習〕まで四段階の手引きで構成されていた。しかもその四段階の学習の手引きは、段階的、系統的に配置されている。また、生徒の学習意欲を引き出すように工夫されていた。今回の改訂によって開発されてきた単元構成の工夫であったと思われる。日本の教科書でも学習の手引きの研究が始まっている。たとえば『中学国語(教育出版)の新教科書(2002年度版)』では、読みの観点を焦点化して提示するポイント型の手引きと、生徒の読みの流れにそって学習活動を提示するステップ型の手引きを開発している。

三つには、教材ジャンルの組み合わせにも特徴がみられる。大単元「文学の楽しさ」を例にとると、詩「初春」、昔話「お父さんの形見」、随筆「幼い日の肖像」、小説「理解のプレゼント」、学生作品「入れ歯(作文)、民謡「子守歌」、学生作品「4時限が終わった(詩)、物語「こいぬのうんち」という教材で構成されていた。すべて異なるジャンルからの採用である。文学教材という概念が韓国では広く考えられていることがわかる。また、昔話・民謡など伝承文芸を正當に位置づけてあることも特徴的であった。

ただ、日本の教科書と比べて指摘できることであるが、逆にいうと、あまりにも構成されすぎていて自由度という点では少ない。日本の教科書では国語教材に付される学習の手引きの数量は多くない。そのために、教える教師は教材研究において国語教材の分析から指導法まで、みずから工夫する必要がある。日本の教科書の大きな特徴は、教師の指導・支援における自主性を引き出すような教科書として編集されていることである。その意味では、単元から学習の手引きまでしっかりと構成された韓国の教科書とくらべると、日本の教科書の構成は敢えておおまかに構成されている。その差異は、比較してみても明らかになったことである。

日本と韓国の国語教科書比較研究は、まだ始まったばかりである。日韓両国にとって、中学校の国語教科書は、日韓のすぐれた文化テキストの集成である。今後は比較文化の視点からの

教科書研究も必要であると思われる。

【資料編】

1. 韓国中学校『国語 1 1』単元構成・ジャンル・著者・出典 ( 教育部、2001 )
2. 韓国中学校『国語 1 2』単元構成・ジャンル・著者・出典 ( 教育人的資源部、2001 )
3. 韓国中学校『生活国語 1 1』単元構成・ジャンル・著者・出典 ( 教育部、2001 )
4. 韓国中学校『生活国語 1 2』単元構成・ジャンル・著者・出典 ( 教育人的資源部、2001 )
5. ( 参考資料 ) 日本『中学国語 伝え合う言葉 1』目次一覧 ( 教育出版、2002 )

資料1 韓国中学校『国語 1 - 1』出典

\* 資料：作品の一部で題材名もない教材

大単元名	単元構成	題材名	ジャンル	著者	出典
1 文学の 楽しさ	小単元 ( 1 )	初春	詩	金芝河	「中心のつらさ ( ソル、1994 )
	小単元 ( 2 )	お父さんの形見	物語 ( 昔話 )		「韓国文学叢書 3 - 口承文芸 ( ソデソク編、ヘネム、1997 )
	小単元 ( 3 )	幼い日の肖像	随筆	文恵英	「懐かしさを知る人だけが苦しさを 知る ( 知性文化社、1993 )
	小単元 ( 4 )	理解のプレゼント	小説	ピラード	「中学校国語 1 - 1 ( ユヨン訳、教 育部、1989 )
	考えを広げ る	入れ歯	随筆 ( 学生作品 )	朴ユンジョ ン	「7年間の過ち ( 金ジュファン編、ハ ムケ、1997 )
	補充・深化	子守唄 1、2	民謡 ( 口承文芸 )		「韓国口承文芸教育史 ( 金ギチャン、 集文堂、1992 )
			4時間が終わった	詩	李ゼユン
こいぬのうんち		物語	權正生	「キリスト教教育 ( 1969年 6 月号 )	
2 読むこ とと書く こと	小単元 ( 1 )	資料	手紙		「わたしたちの心の中の話 ( 金ヒョ ンモ編、チョクジ、1999 )
	小単元 ( 2 )	ある手	詩	崔ヒャンソ プ	「白いつえ ( リハビリ工学、1994 )
		お母さんの傘	随筆	張ヨンヒ	創作
	小単元 ( 3 )	スープの物語	随筆	文炯東	「2 回咲く花 ( サンソン書籍、1992 )
	補充・深化	田舎くさいアナウン サー	随筆	李錦姫	「セムト ( セムト、1990 )
片目のないお母さん		手紙	李殷相	「中学生のための散文50選 ( 金フ ン・安ドヒョン編、ハンピッ、1999 )	
3 文学と コミュニ ケーション	小単元 ( 1 )	きつねとへび	物語	イソップ	「イソップ寓話 ( シンホン Chol・崔 インザ編、文学世界社、1998 )
		自ら得た知恵	随筆	姜希孟	「韓国古典名随筆選 ( 孫グァンソ ン編、ウルユ文化社、1999 )
	小単元 ( 2 )	ヒョンイの演劇	随筆	李京姫	「中学校国語 1 - 2 ( 教育部、1996 )
	小単元 ( 3 )	湖	詩	鄭芝溶	「鄭芝溶全集 1 詩 ( ミンウン社、 1998 )
	考えを広げ る	資料	小説	サンテグジ ユペリ	「星の王子さま ( 全ソンザ訳、文芸 出版社、1994 )
補充・深化	資料	物語	マピント・ ケイア	「タルムード ( シンヒョンミ訳、図 書出版ダモア、1993 )	

		虎の権勢を信じて	物語		「99個の知恵(趙ソング編、考える民、1993)
4. メモしながら読む	小单元(1)	わたしの木	随筆	李圭泰	「韓国人のくせ2(シンウォン文化社、1991)
	小单元(2)	ハフェ村	記事	金世俊	中央日報、1999年8月26日記事
	小单元(3)	家庭教育の昨日と今日	論説	金泰吉	「かっこよくない世の中がかっこいい人(ボンウ社、1984)
	補充・深化	資料	昔話	羅貫中	「三国志(李ムンヨル評訳、ミンウン社、1996)
		バカな医者物語	伝記	蔡奎哲	「ソンサン ジャンギリョ(李ギファン編著、ハンゴルム、2000)
5. 生と葛藤	小单元(1)	小説東医實鑑	小説	李恩成	「小説東医實鑑(創造と批評社、1990)
	小单元(2)	肉体美騒ぎ	ドラマ台本	朴晶和	「韓国放送作家賞受賞作品集(第3企画、1994)
	補充・深化	風を売る少年	物語	李俊淵	「特殊学校中学部国語2(教育部、1994)
		サムヨンイ	小説	羅稻香	「正統韓国短編99選(タイム企画、1994)
6. 言語の世界	小单元(1)	音声言語と文字言語	説明文	金容爽	(書き下ろし)
	小单元(2)	文字の歴史	説明文	世界の文字研究会	「文字の歴史(金スニル訳、ボンウ社、1996)
	補充・深化	ハングル文字の名前と順番	説明文	オクヒョンジン	(書き下ろし)
		すべてのものには名前がある	伝記	ヘレン・ケラー	「わたしの魂の目を開けて(崔ヨンミ訳、ジムン社、1994)
7. 文学と社会	小单元(1)	洪吉童伝	小説	許均	「洪吉童伝、ジョンウチ伝、ソファダン伝(金イルヨル訳注、高麗大学校民族文化研究所、1996)
	小单元(2)	30年前のその日	随筆	姜元龍	「セムト(セムト社、1973)
	小单元(3)	屋上のタンボポ	小説	朴婉緒	「ささやき(セムト社、1997)
	考えを広げる	お父さんがくる時	詩	河デウォン	「国語時間に詩を読むこと(全国国語教師会編、ナラマル、2000)
		お母さんが心配	詩	ギヒョンド	「口の中の黒い葉(文学と知性社、1991)
	補充・深化	試験の三日前	学生作文	李サンウォン	(書き下ろし)
		アンネの日記	日記	アンネ・フランク	「アンネの日記(ゴンドクヨン訳、チョンモク、1999)
休憩室	管鮑の交わり	故事成語		「わたしたちの知るべき故事成語(ジンドンイル編、マルゴンソリ、1998)	

資料2 韓国中学校『国語1 2』

大单元名	单元構成	題材名	ジャンル	著者	出典
1. 能動的に読む	小单元(1)	画家李ジュンソプ	伝記	厳光緒	「李ジュンソプ(ウンジン、1995)
	小单元(2)	食べて死ぬ	随筆	法頂	「鳥が去っていった森は静寂になる」(セムト社、1996)
	考えを広げる	偏食・過食文化、病気を食べる	論説	尹グビョン	東亜日報、1999年12月3日記事

	補充・深化	足長おじさん 資料 葉を売らない薬屋さん 肥満治療、体質によって違う	小説 説明文 随筆 論説	ウェブスター 執筆陣 金ソギョン 尹ヒョンジュ	「足長おじさん(金イルファン訳、キダリ出版社、1987) (書き下ろし) 「現代随筆文学賞受賞作家代表作選」 (ウルコ文化社、2000) 釜山日報、1998年6月17日記事	
2 文学の 美しさ	単元の手引き	きみのために	詩	金ナンゾ	「金ナンゾ詩全集(ソムン党、1985)	
	読む前に	煙突	詩	尹東柱	「空と風と星と詩(ハンミ出版社、1980)	
	小单元(1)	海の見える教室	詩	鄭一根	「海の見える教室(創造と批評社、1987)	
	小单元(2)	にわか雨	小説	黄順元	「にわか雨(ヤンウ党、1986)	
	小单元(3)	ソムジン江紀行	随筆	金薫	韓国日報、1999年12月8日記事	
	小单元(4)	トンミョン王		物語	李マンキ編	「韓国の代表説話(ピンネム出版社、1997)
			ムカデ市場	物語	西テソク編	「口碑文学(ヘナム出版社、1997)
			友情の道	物語	編集部	「韓国人の民話(ベストブック、1999)
	考えを広げる	トン江は流れる	詩	学生作品	http://www.dongriver.com	
	補充・深化	秋の郵便屋	詩	宋ミョンホ	「私達の先生の推薦した童詩300編」 (朴イジョン、1996)	
揺籃期 私の心は		小説 詩	呉ヨンス 栗谷文化社 編集部	「伝統韓国文学大系(語文閣、1986) 「韓国の名詩(栗谷文化社、1990)		
銀河		随筆	徐ジョンボン	「ブンバァ、ブンバァ(チョンア出版社、1992)		
休憩室	引越しする日	詩	李チョルス	「良い考え(良い考え社、1998年11月号)		
3 判断して読む	小单元(1)	訓民正音完成される	説明文	歴史新聞編纂委員会	「歴史新聞」第3巻5号(四季出版社、1996)	
		ハングルの優秀性	説明文	鄭ドンファン	「読書(リグアンホ・柳ゼヨブ・リサンジョン、才能教育、1998)	
	小单元(2)	わが花の散歩	説明文	李惟美	http://megalam.chollian.net	
	考えを広げる	7月のユリ	随筆	李惟美	http://megalam.chollian.net	
	補充・深化	ノーベル賞物語	説明文	泉の深い水 編集部	「泉の深い水(根の深い木、2000年11月号)	
		土地の名前	説明文	南ギシム	「あなたはわが言葉を新しく正しく書いていますか(南ギシム・金ハス、セムト社、1995)	
農業の言葉に残っているきれいな韓国語		随筆	シンギョソリム	「また一つになれ(語文閣、1986)		
鴨		随筆	高ジンハ	「トン江文学」2001号春号(図書出版 考えが育つ木)		
4 詩の世界	単元の手引き	親が生きているうち	時調	鄭ビョンウク編著	「時調文学辞典(新旧文化社、1966)	
	小单元(1)	鳳仙花の歌	詩	金ヒョンジュン作詞	「中学校音楽2(株)デュサン1996)	

		鳳仙花 三人の兄弟	詩 時調	金相沃 朴仁老(鄭 ビョンウク 編著)	「チョソク(スヒャン書院、1947) 「ノゲ歌詞23」時調文学辞典(新旧文 化社、1966)
	小单元(2)	石垣にささやく日ざ し 草の葉っぱ	詩 詩	金永郎 朴ソンリョ ン	「永郎詩集(詩文学社、1935) 「故郷は地の果て(文学世界社、 1991)
	小单元(3)	村  ある町	詩 詩	朴 ナン ス (金ヒボ編 著) 都鐘煥	「韓国の名詩(ゾノ口書籍、1984) 「人間の村に花が散る(文学ドンネ、 1994)
	小单元(4)	私たちが雪だったら  風が雪を寄せて	詩 時調	安度眩  安ミンヨン (鄭ビョン オク編著)	「君のところにいきたい(青い森、 1991) 「ファラク121」時調文学辞典(新旧 文化社、1966)
	考えを広げ る	薄紅色ふさふさ	詩	金オク	「アンソ金オク全集Ⅰ 創作詩集(朴 ギョンス編、韓国文化社、1987)
	補充・深化	叔母  秋の少女たち  太陽	詩 詩 詩	尹ジョン スン 梁ジョン ザ 朴デュ ジン	「釜山日報2001初春文芸童詩部門当選 作(釜山日報社、2001) 「子どもたちの草の葉っぱの歌(創作 と批評社、2000) 「太陽(チョンマン社、1949)
	休憩室	昔話の中の気象現象	説明文		「中学読書 評論・論説(チガク社、 2000年9月号)
5 文の仕 組み	小单元(1)	説話の中の虎	説明文	崔雲植	「民俗的な生の意味(ハンウル、 1993)
	小单元(2)	棟梁の誇り 資料	随筆 随筆	李範宣 李ヨンヒ	「戦争と梨の木(クァンドン、1975) <a href="http://www.lee-younghee.com">http://www.lee-younghee.com</a>
	小单元(3)	通信言語をどう使う か	論説	王汝鎔	(書き下ろし)
	補充・深化	お盆の民俗遊び 新聞と雑誌の役割  きれいな器  先端科学の可能性と 限界性	説明文 説明文 随筆 論説文	崔サンス 千クァンウ  池ソン チャン 朴ソンレ	「中学校国語1 2(教育部、1984) 「わが時代の韓国文学33(啓蒙社、 1994) 「月間エッセイ(月間エッセイ社、 1995年12月号) 「コラムで書いた科学(チガク社、 1985)
	休憩室	大工の絵	随筆	シンヨン ボク	「木よ 木よ(石まくら、1996)
		小单元(1)	白い紙ひげ	小説	河瑾燦
6 文学と 読者	小单元(2)	資料 呼吸する遺影	小説	丘仁煥	東亜日報、2000年12月1日記事 「正統韓国文学大計49(語文閣、 1986)
	考えを広げ る	国土11	詩	趙テイル	「国土(創作と批評社、1991)
	補充・深化	傘売りおじいさん 少年の日の思い出	童話 小説	金チョルス ヘルマン・ ヘッセ	<a href="http://pbooks.zzagn.net/home.html">http://pbooks.zzagn.net/home.html</a> 「少年の日の思い出(ボンウ社、 1989)

資料3 韓国中学校『生活国語1-1』

大単元名	単元構成	題材名	著者	出典
1 考えと表現	小単元(1)	どう創意的な考えを思い浮かべるか	朴ゼドン	(書き下ろし)
		資料	孫セボドル	「創意的な考え、体系的な文(韓国文化社、1997)
	小単元(2)	資料	李ガヨン	中央日報、2000年1月13日記事
		資料	イソップ	「イソップ寓話全集(シンヒョンチョル、崔インザ編、文学世界社、1998)
	補充・深化	資料	李ウェス	「感傷辞典(ドンスドン、1994)
		資料	朴グァンス	「グァンスの考え(ソダン出版社、1998)
お父さん		イタン	(書き下ろし)	
2 話すことと聞くこと	小単元(1)	話すことと聞くことの特性	ノミョンウァン	(書き下ろし)
	小単元(2)	資料	オジュン	(書き下ろし)
	補充・深化	聞くように	李ヘイン	「四季の祈祷(ブンド出版社、1993)
3 情報収集	小単元(1)	資料	韓国精神文化研究院	「韓民族文化大百科事典(韓国精神文化研究院、1991)
		資料	教育放送	東亜日報、2000年4月11日(教育放送編成表)
	小単元(2)	資料①②	金ゼボン	「緑共同体のための実践 UN 環境計画韓国委員会環境叢書1」(UN 環境計画韓国委員会、1998)
		資料①		国立環境研究院 ( <a href="http://www.nier.go.kr">http://www.nier.go.kr</a> )
		資料②		環境部 ( <a href="http://www.me.go.kr">http://www.me.go.kr</a> )
	補充・深化	資料	千ギョンロク	(書き下ろし)
資料			青少年保護監視団 ( <a href="http://cyc.youth.re.kr">http://cyc.youth.re.kr</a> )	
4 国語生活の反省	小単元(1)	資料	韓ビヤ	「風の娘、わが地に立つ(青い森、1999)
		資料	鄭ヘスン	(書き下ろし)
		資料①(土)	李グァンス	「韓国文学代表作語文特選5(語文閣、1994)
		資料②(お母さんが大好き)	李ジャンス	
	補充・深化	資料		傾向新聞、1994年7月3日記事
5 内容の選定	小単元(1)	資料	教育部	「中学校国語2-1(教育部、1996)
		資料①		デュサン世界大百科事典
		資料②		ハンギョレ新聞、1999年1月10日記事
		資料③		ハンギョレ新聞、1999年2月12日記事
		資料④	イブコア	「鯨の生と死(シゴン社、1995)
	補充・深化	資料	趙ピョンヨン	(書き下ろし)
6 状況にふさわしく話す	単元の手引き	資料	朴イジョン	「韓国語の探求と理解」2000
		資料(処世秘法)	趙ジフン	「趙ジフン全集(ナナン出版社、1996)
	小単元(1)	資料	鄭ヘスン	(書き下ろし)
		世界のすべての親たちに	セバンコリス・スズキ	「大衆メディア 読んで書いて考える(セゾン書籍、1999)

	補充・深化	資料	李サンジョン	(書き下ろし)
		資料		「物語袋」グオンテモ編、韓国読書指導会、1999)
7.書き直し	小単元(1)	作文の上手な天才たちの嘘は信じないで	韓スンウォン	「韓スンウォンの作文教室」(文学思想社、1998)
		資料	鄭ヘヨン	(書き下ろし)
		資料	鄭ヘヨン	(書き下ろし)
	小単元(2)	資料	学生作品	
		資料	金ヨンゼ	(書き下ろし)
	補充・深化	資料	学生作品	
		資料	学生作品	
資料		学生作品		
休憩室1		韓国語への旅	李ギムン	「あなたの韓国語の実力は？」(東亜出版社、1985)
休憩室2		わたしたちの体	ベルナル・ベルベル	「相対的で絶対的な知識の百科事典」(開かれた本たち、1996)
		考えを開く物語		「語ってあげたい大切な物語」(李ウォングァン編、図書出版根っここと翼、2000)

資料4 韓国中学校『生活国語1 2』

大単元名	単元構成	題材名	著者	出典
1.生活と作文	小単元(1)	資料	パトリック	「文章をどう書くか」(李ウルファン訳、キョンムン社、1988)
		資料	朴ドンギユ	「作文を恐れるな」(文学思想社、1997)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
	補充・深化	資料	崔ホヨン	「良い考え」(良い考え社、2001年4月号)
		資料		http://www.friend5279.or.kr
2.言葉と形態素	休憩室	闇を明かす光の文字	文化と私編集部	「文化と私」1997年9・10月号(サムソン文化財団)
3.判断しながら聞く	小単元(1)	資料	柳ホンジュン	「私の文化遺産踏査記」(創作と批評社、1994)
		資料		「感動を与えるパカ」(金カプス編、ボンソ出版社、1996)
		資料		http://www.imbc.com/tv/culture/sisa2580/index.html 2001年1月7日第321回
		資料	教育部	「中学国語1 2」(教育部、1991)
	小単元(2)	資料	裴ドンジュン	「イエオル」23号(釜山デザイン高等学校、1999)
		資料	教育部	「中学校国語2 1」(教育部、1996)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
補充・深化	資料	韓国ブリタニカ社	http://deluxe.britannica.co.kr/bol/topic.asp?article_id=blls2169a 韓国ブリタニカオンライン	

4 文と主題		資料		「韓国の民話(ホンテハン編、民族院、1999)
		資料		「木よ 木よ(石まくら、1996)
	単元の手引き	資料	教科書編集部	(書き下ろし)
	小単元(1)	資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
	小単元(2)	資料(豚の身の上)	尹ファジュン	「根の深い木(1980年1月号)
		資料①		( <a href="http://kis.edunet4.u.net/cgi-bin/text-book/korean">http://kis.edunet4.u.net/cgi-bin/text-book/korean</a> )エデュネット
		資料②	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料①	韓国教育開発院	「中心内容把握戦略(韓国教育開発院、1991)
		資料②	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料(しよいこを嘆息する)	李御寧	「土の中に あの風の中に(文学思想社、1996)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
	補充・深化	資料	李グァンギユ	「文化人類学概論(イルゾガク、1998)
		資料	鄭ドンチャン	「民族科学の足跡Ⅱ(国立中央科学館、1996)
休憩室	塞翁之馬	チユンファン	「故事成語(ホンシン文化社、1989)	
6 様々な文	単元の手引き	資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料		中央日報、2001年4月30日記事
	小単元(1)	資料		朝鮮日報、1994年9月4日記事
		資料		文化日報、1999年10月20日記事
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
	小単元(2)	資料		韓国放送広告公社( <a href="http://www.kobaco.co.kr">http://www.kobaco.co.kr</a> )
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料	教科書編集部	(書き下ろし)
		資料		文化日報、2000年2月19日記事
	補充・深化	資料		朝鮮日報、1999年7月4日記事

5(参考資料)日本『中学国語 伝え合う言葉 1』

単元名	言語領域	ジャンル	言葉の研究室1 漢字の広場2 読書室 ベンチ(リヒター)	言語事項 語彙 読書	
1. 言葉の森へ わたしの中にも(新川和江) 思い出のひと品 オツベルと象(宮沢賢治) 出会いの時を生き生きと 言葉のきまり1 漢字の広場1	読む 話す・聞く	詩 物語			物語
2. 環境をとらえる かけがえのない地球(島村秀紀) 身近な自然とわたしたち 里山を歩く(ケビン=ショート)	読む 話す・聞く 読む	論説 随筆			
			3. 心をひらく 河童と蛙(草野心平) 新聞少年の歌(辻 仁成) 説明を的確に 言葉のきまり2 漢字の広場3	読む 読む 書く 文法 語彙	詩 小説

单元名	言語領域	ジャンル			
4．古典にふれる 伝統の中から いろはがる た・川柳・狂言 竹取物語 故事成語 言葉の研究室 2	読む  読む 語彙 言語事項	古文  古文 漢文	漢字の広場 4 読書室 ちょっと変じゃない？（青木やよひ）	語彙 読書	評論
5．科学への目 動物の睡眠と暮らし（加藤 由子） 人の呼び方を考える 言葉のきまり 3	読む  話す・聞く 文法	説明文	6．出会い 自分を見つめ直す ものづくりに生きる（小関 智弘） 少年の日の思い出（ヘルマ ン＝ヘッセ） 未知へ（木村信子） 言葉のきまり 4 自分だけの「情報」を発見 しよう	書く 読む  読む  詩 文法 （情報）	説明文  小説  詩